



石関土地改良区



子育て地藏尊 (玉田)



けやき1対 (安沢)



石上神社 (大槻)



まちなみに残る倉 (大槻)

「九尾の狐」伝説
 片岡の大槻地区には、こんな伝説も残されている。ここには地名の由来となった大きな槻の木があり、九尾のキツネが隠れていたという話である。それを退治しに来た勝善親王が石上神社でお祈りすると、お告げがあり、退治するために大きな槻の木を切り倒すことができたという。しかしながら九尾のキツネは逃げてしまい、勝善親王は責任を取ってここで自害し、勝善神社に祭られているという話である。

02

歴史力

歴史を肌で感じる

■片岡地区の由来

なぜ、この地区が「片岡」と呼ばれるようになったのか。色々な方に話を聞くと、「岡村の片隅だったから」「昔からそう言われていた」などの答えが返ってくる。この地域の地図を見ると、内川沿岸の平地と丘(岡)に囲まれた地形上から出た名称であることは想像がつく。東部は、内川によって削られた水田地帯と丘陵に別れ、江川は山苗代地区を縦貫し、通岡地区、梶ヶ沢地区などに水を供給している。その肥沃な地域の中に、大昔から人が住んでいたことが多くの遺跡が発掘されていることから分かる。その中でこの地域で目立っていた丘(岡)が地名の由来になったものであろう。

歴史書籍で調べてみると、「造東大寺司牒」(牒とは役所間で取り交わす文書)天平勝宝四年(西暦

752)に「塩谷郡片岡郷五十戸」との記載があり、また十世紀の前半に設立された「和名類聚抄」によると、古代下野国には九郡七十郷があったされており、その中で、九郡中八番に登場する「鹽屋郡」の郷名には、七郷(山上・片岡・河曾・阿・散伎・山下・餘戸との記載がある。しかしながら、この記載の地区が、現在の片岡地区をそのまま表すのかどうかは、定かではない。

■片岡村のおいたち

片岡地区は、明治二十二年の町村制実施の際、高塩・境林は矢板町へ、蒲須坂は氏家町へ、小入、鷲宿は喜連川町にそれぞれ合併し、

「岡・安沢・越畑・松島・乙畑・大槻・石関・玉田・山苗代」の九ヶ村をそれぞれ大字として新しい片岡村となった。その後60余年、片岡村が続く中で松島地区が氏家町へ合併し昭和三十年一月一日、昭和の大合併により矢板町・泉村と合併した。その後、昭和三十三年十一月一日に市制施行により矢板市が誕生した。

■片岡歴史さんぽ

片岡地区を歩いてみると、当時の歴史を感じさせてくれるものが数多く残されている。野に佇む野仏、大空に伸びたけやき、神社仏閣、伝統行事、皆さんも片岡地区を歩いて歴史を探してみませんか。



旧片岡村公民館



矢板インターチェンジ開通



国道4号バイパス開通



東京(上野)以北初のトンネル

片岡略年表 (明治～)

- 明治6年 見遠校を明本寺に創立(片岡小学校前身)
- 7年 安沢学校創立(安沢小前身)
- 13年 乙畑学校創立(乙畑小前身)
- 明治17年 奥州街道開通(国道4号)
- 22年 市町村制施行、岡外八ヶ村を片岡村とし各村を大字に
- 30年 片岡駅業務開始
- 昭和2年 片岡駅前大火
- 22年 片岡中学校設置
- 25年 片岡村公民館を設置(片岡山本経寺)
- 26年 片岡村公民館新築落成
- 28年 片岡村公民館が全国優良公民館として文部大臣賞受賞
- 29年 高松宮ご夫婦が片岡公民館を視察
- 30年 矢板町、泉村、片岡村が合併し新たに矢板町となる
- 33年 市制施行により矢板市となる
- 35年 東北本線矢板～片岡間復線開通
- 43年 国道4号バイパス乙畑～土屋間開通
- 48年 東北縦貫自動車道矢板～岩槻間開通
- 53年 片岡地区「ミニニテ」推進協議会設立
- 54年 片岡公民館新築移転
- 57年 東北新幹線大宮～盛岡間開通
- 57年 農業者トレーニングセンター設置
- 平成3年 水処理センター(安沢地内)完成・下水道供用開始
- 5年 矢板南工業団地(現・矢板南産業団地)造成起工
- 9年 片岡地区「ミニニテ」推進協議会、地方自治法施行50周年 記念自治大臣表彰受賞(「ミニニテ」活動)
- 11年 矢板南工業団地(現・矢板南産業団地)進出第一号企業工場完成
- 16年 県道矢板那須線乙畑バイパス開通
- 17年 第58回優良公民館文部科学大臣表彰受賞
- 19年 皇太子殿下御一家御来館
- 20年 片岡地区「ミニニテ」推進協議会設立30周年記念式典